

新技術・情報名	ベゴニアさび病(新称)の発生生態		
実施場所	三重県農業技術センター環境部・筑波大学農林学系	分類	* ①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

1982年6月、三重県桑名市の温室で、新しいベゴニアのさび病を採集した。本病は、病状が進むと、葉表にはほぼ円形の暗褐色大形輪紋を形成し、葉裏には同心円をえがいて多数の夏胞子を噴出する。後にこれらの病斑は融合し、やがては葉全体が枯死することから被害はきわめて大きい。自然発病から本病の発生をみると、これまでのところ、エラチオール・ベゴニアに限られ、同一温室内に栽培されているその他のベゴニアには、全く発病を認めていない。

また、接種試験等によるこれまでの調査から、病原菌は、Boehmeria属植物に寄生している *Pucciniastrum boehmeriae* p. et. H. Sydow であることが明らかとなった。そして、ベゴニアへの伝播は、夏の期間に山上げ栽培することによって、その周辺に自生しているクサコアカソなど同属の雑草からおこることも明らかとなった。

2) 技術情報の適用効果

雑草が伝染源となっていることが明らかとなり、特に山上げ栽培での防除を徹底させることによって、品質の向上をはかることができる。

3) 適用範囲

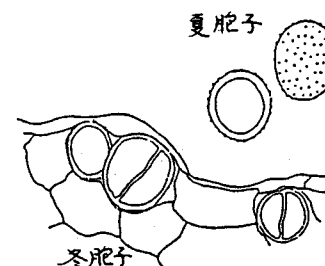
ベゴニア生産者

4) 普及指導上の留意点

- (1). 生産地周辺の雑草(とくに *Boehmeria*属)の除去をさせる。
- (2). 農薬の散布は、適期を逃さないよう指導する。とくに、山上げ栽培では、夏期冷涼のための発生が早く、8月上旬からの薬剤散布が必要である。

2. 具体的データ

1). 菌の形態



※1 図 コアカソ上の夏胞子と冬胞子(本間氏)

- 2). 寄主範囲: オニヤブマオ, ヤブマオ, メヤブマオ, ナカバヤブマオ, コアカソ, ラセイタソウ, アカソ(伊藤誠哉 1940, 大日本菌類誌) フサコアカソ, ベゴニア(筆者ら)

3). 交互接種

※1 表 接種試験による病原性の確認

接種源採集植物	被接種植物	感染の有無	発病	夏胞子形成
クサコアカソ	ベゴニア	+	19日後	25日後
ベゴニア	クサコアカソ	+	10日後	10日後

注) 1. 接種日: クサコアカソ→ベゴニア 10月28日
ベゴニア→クサコアカソ 10月24日

2. 接種条件: 接種箱(20°C 24時間), 以後は室温

3. その他特記事項

研究課題名: ベゴニアさび病(新称)の発生生態と防除

研究期間: 昭57~59

予算区分: 果実